

平成24年度第2回金沢市廃棄物総合対策審議会

会 議 録

日時：平成24年9月25日（火）
午前10時00分～11時30分

会場：金沢市役所4階
会議室「兼六」

所管：金沢市環境局環境政策課

本件は、平成24年度第2回金沢市廃棄物総合対策審議会の会議録であることを
了解します。

平成24年11月13日

金沢市廃棄物総合対策審議会

会長 関 平和

平成 24 年度第 2 回金沢市廃棄物総合対策審議会 議事録

■日 時 平成 24 年 9 月 25 日（火） 10:00～11:30

■場 所 金沢市役所 4 階 会議室「兼六」

■出席者 別紙のとおり

■内 容 以下のとおり

環境局長

委員の皆様におかれましてはご多忙中のところ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。また、日頃より本市の廃棄物行政にご理解、ご協力いただき重ねて厚く御礼申し上げます。

前回諮問した「東日本大震災災害廃棄物の受入れについて」、第 1 回の審議会が開催された 8 月 27 日以降のこの件について、いろいろ新聞等で目にしていることもあると思うが、この 1 か月の動きについて説明する。

まず 8 月 31 日に戸室新保埋立場周辺の地域住民や市町会連合会役員の方々に、現地宮古市の藤原埠頭の仮置場を実際に見てもらった。実際に放射線量率の測定もしてもらい、放射能に対する不安も若干払拭することができたのではないかと考えている。9 月 6 日には、市町会連合会、市校下婦人会連絡協議会での説明会もさせてもらった。9 月 7 日と 9 月 9 日には、市民説明会を開催した。市民説明会では 2 日間で延べ 9 時間にわたりご意見をお聞きし、延べ 240 人の参加があった。この中では、放射能の安全に関する質問や健康被害があった場合の補償などについて多くの質問が寄せられ、市長を始め、環境省、石川県にも参加してもらい説明を行った。

また、昨日閉会した 9 月議会でも安全性に関するものなど多くの質問があった。現在本市としては、市民や周辺住民の理解を得るため努力しているところである。後ほどどういったご意見があったかは事務局から説明する。

今後の流れとしては、住民の皆様の理解を得た上で試験搬入を実施したいと考えている。実際に委員の皆様に見ていただければ、安全なものであるとお分かりいただけるのではないかと考えている。

本日は、諮問の日から 1 か月が経ち、委員の皆様のところにもそれぞれのお立場上、いろいろな意見が寄せられていることと思っており、そういった声も聞かせていただければと思っている。また、生活排水処理計画の策定ということで、生活排水処理計画とは何かというと、し尿と浄化槽という下水道以外のものであり、特に汲み取りし尿

と浄化槽汚泥について、下水道が普及して年々処理量が減少していくわけだが、そういった中でし尿と浄化槽は市の固有事務であり、将来の安定したし尿処理体制を構築していくためにいろいろなことを検討していく必要があると考えているところである。

委員の皆様にはどうか忌憚のないご意見を賜れば幸いである。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

事務局

出村委員の欠席、藤原委員の代理出席の報告

本日の出席は11名であり、過半数を満たしていることを報告

会 長

本日は、諮問「東日本大震災により発生した災害廃棄物の受入れについて」の2回目の審議となる。また、ほかに報告案件が1件となっている。

審議は公開とし、傍聴を認めるということでよろしいか。

(異議なし)

特に、異議がないようであれば、このまま審議を始める。

皆様には、忌憚のないご意見を願います。

それでは、まず、諮問事項の「東日本大震災により発生した災害廃棄物の受入れについて」であるが、まず、資料1「災害廃棄物の受入れに関する説明会について」を事務局から説明をお願いします。

環境政策課長

「津波被害による岩手県・宮城県の災害廃棄物の受入れについて」
(環境省) DVDの上映

資料1「災害廃棄物の受入れに関する説明会について」を説明

会 長

ただ今の説明を受け、ご意見、ご質問はないか。

委 員

市民説明会の2回目は6時間半と長時間にわたっているが、意見交換が長引いたのか。

環境政策課長

前々日の夜(7日)にも市民説明会を行ったが、金沢歌劇座の閉館時間の9時30分で終了した。まだ、質問、意見を言いたい人がいたので、市長が2回目も閉館時間まで行うことを伝え実施した。その中では、質問・意見の時間がほとんどであった。

委 員

私も宮古市へ地元町会の方々と行った。皆さん、安全性のことを一番心配していた。現地で働いている人の様子とか(がれきを)分別している人の様子とかを見て「これだったら受入れが可能ではないか」

という思いが強かったのではないかと思う。実際がれきを積み上げてあった置き場も見てきたが、これくらいならフレコンバッグ等に入れて埋め立てすることについては早くしてあげなくてはという思いで帰ってきた。しかし、帰ってきていろいろな説明の中で、私は安全ということといいと思っているが、安全についてどんどん説明されると、納得しているのに、現地で見えてきたものが本当に大丈夫だったのかと逆に変な思いが出てくる気がする。これだけきちんとしたデータも出ているし、大学の先生もこれは大丈夫だと、国の基準も下回っているということであれば、できるのであれば、現地の人も待ち望んでいることなので、早く結論を出した方がよい。変な勘ぐりが出てくるのではないか。このことは100%理解をもらおうと思っても絶対無理であるし、1日も早く理解してあげて、幸いにして金沢市には埋立の余力もあるということなので、観光地金沢ということであれば、見る所だけが観光ではなくて人の思いやりとか心も観光の一つになるとしたら、いいことではないかと思う。

委員

校下婦人会も説明を受け、いろいろな地域の方、もちろん俵、医王山、夕日寺の地域の皆さんもいたが、それらの地域の皆さんがお孫さんのことや（埋立場の）跡地が遊具の置き場になったり、広場になったりして、子どもたちが元気に遊んだとしても健康に害がなく、また、地域でいろいろな作物を作っており、その方たちにも安心して作物を作ることができることが確認されれば、違う地域の者が「(がれきを受け入れても) いいのではないか」と言うばかりでなく、埋立場の周辺の地域の方が理解して埋立に協力しようということになれば、みんなで応援して早く東北の復興に協力したいという意見がほとんどであった。埋立場の周辺の地域の皆さんが了解した上でなら早く協力してあげたい。

委員

今ほどの説明の中で、市の説明を理解できた方が約38%、その後の意見交換で理解できたという方が56%ということがあったが、市の説明の方法に問題があるのではないか。それに対応してQ&Aを作り、ホームページで公開するということだが、ホームページだけだと見る人が限られてしまうので、もっと多くの方に理解してもらうためには、いろいろな広報活動が必要ではないか。そういう取組をぜひしてもらいたい。

委員

「心配」という言葉をやたらとよく聞く。心配は一生つきまとうものだ。私自身今年の6月に山形から仙台を經由して塩竈に行った。塩竈は漁港で、悲惨さだけを目の当たりにした。現地で処理したらどうかという意見があったが、現場で見た限りでは、現地ではどうにもな

らない。みんなが協力しないといけないというのが私の意見。

委員

現実問題として時間が経てば経つほど被害がひどくなっていく面もある。昨年の6月にいわき市で何か協力できないかということで、いわき市で作ったしいたけを購入した。できることは協力していきたい。もう1年半も経っており、なんとか協力して早く復興できればよい。

委員

がれきを引き受けるという話があった場合、基準はクリアしていて現在は問題がない訳だが、その値が信じられない、安心できないという考えの方から見ると「もし何かあった時にはどうしてくれるか」ということで、100%安全ということは、今安全神話が崩れている傾向にある。仮に問題が全くなかったとしても問題があった時にどういう責任をとるか、誰が責任を持ってやるかということ、(問題があるという前提ではなく、仮になくてもこういう風に考えていて、こういう風にするということを公表する、納得できていない人に提示することが理解を得られる一つの方法ではないかと考える。その辺の対応は考えているか。

環境政策課長

まず1点は、風評被害ということで、実際の農作物への風評被害などの相談窓口の設置を検討している。広域処理は国の責任で行っており、国の方にも相談窓口があるので、実際にそういうことが発生したら国に被害について申し入れをしていく。

委員

放射能の問題は、特に子どもに対して親が心配することであるので、今いる人たちがいなくなった先のことを考えて不安がっている。明日、明後日のことではないから不安なのだろう。未来が不安な方の理解を得ることも考えていったらよいのではないか。

環境局長

放射線というのは、知識として今まで習ってこなかった。普通はないものと思っている。見えないし臭いもしない。いろいろな方が宮古市は汚染されていて、そこから持ってくる物は放射性物質だ、100ベクレル/kg以下であっても、低線量はもっと問題だと不安に思っている。私たちは通常であっても、自然界から宇宙線や食べ物などから放射線を浴びている。金沢でも1.5ミリシーベルト年間浴びている。今回試算した一番(がれきの)そばにいる作業員でも0.049ミリシーベルトで、厳しい条件で試算してもこの位である。

また、受け入れると内部被爆するという話もあるが、被災地で梱包したものを持ってきて、即日埋め立てるので、(がれきが)飛んでいくことはないと説明しても、一般論として内部被爆は非常に危ないと

言われる。放射線は確かに危ないもので気をつけるべきものだが、普通に身の回りにあるものであり、不必要に恐れて心配しても意味がない。放射線そのものについて、正しい知識というか、放射線をどう扱って、どう考えればいいのかというようなことも国にも求めているところだが、考えていきたい。

委員

町会連合会でも同様な意見が出た。そのときの市長の返答は、広域処理に出す時は安全な物しか出さないということ。宮古市については被ばく地ではないということ。最後に、金沢市民に危険性のある物は絶対入れないと、もしあったら受入れはやめるとそこまで言った。私らはそれが責任ではないかと受け止めた。私らも小さい頃第5福竜丸がビキニ環礁でアメリカの核実験に遭い帰ってきた時にガーガーと鳴る検知器を当てたり、雨に当たったらいけないと言われたが、それくらいの時でも雨の中走り回ったりしていた。

環境局長

確かに1960年代は放射能濃度が高かった。その影響で金沢でも2009年に土壌を測定すると1kgあたり24ベクレルあり、太平洋側よりも高かった。

委員

前回は話題に上がっていたが、心配されているのは放射線の安全性が一番大きいと思う。処理方法から考えても燃やすよりも埋める方がいい方法だろう。漁具・漁網の引受先がなかなかないという話があったので、それを処理できる可能性のある金沢市が手を挙げることは良いことではないか。あと、風評被害について、危険な物を金沢市が受け入れるということが声高に伝わっている気がする。そこを何とか払拭できる方策をしていかないといけないのではないか。

委員

前回は話したが、風評被害が一番怖い。数値については安全だろうと思うが、今の状態のままだったらと時間が過ぎてしまうと、だんだん受け入れしにくくなっていく。とにかく一步踏み出してみ、問題点が出てくればその時点で対策を考えていくのがベストではないか。このまま意見集約を行っても物事は何も進んでいかない気がする。市民説明会で賛成する人の発言が少なかったとあるが、多分この説明会に関しては反対する人が積極的に参加していたのではないか。被災地のために何とかしてあげたいという人は、わざわざ時間を作って足を運ぶ人は少なかったと思う。実際、卓上で議論していても何の解決にもならない。反対する人の不安が増大していくのは人間として当然だと思う。とりあえずいろいろな対策を講じた上で一步踏み出してみることが必要ではないかという気がする。

委員

私も実際に宮城県石巻市、岩手県陸前高田市の被災地に行った。ボランティアで災害廃棄物の撤去作業や被災地の方のニーズに合わせ、位牌の捜索もした。あと用水路の整備とかもしてきた。石川県内でも義援金の募金活動や献血の呼びかけ活動など、災害復興のボランティア活動に携わっているので、今回の金沢市の災害廃棄物の受入れに対しても興味があった。私個人は（受入れに）賛成だ。先ほどもあったが、賛成している人は多いと思うし、放射線への理解があまりないということもその通りだと思う。ボランティアとして関わったことから、何とかして協力してあげたい気持ちが強い。震災が起こった場所が東北で、石川県からは遠い場所である。バスで8時間や10時間かかるようなところ。石川県内や富山県、福井県の隣県で起こったことであればもっと協力してあげたいとか、受け入れたいという気持ちが強くなるのではないか。場所が遠くにあり、関わりもあまりないことから受入れに否定的なのかなと思う。絆、絆と言うが、絆という言葉がとても薄っぺらいと感じていた。市民説明会は受入れに否定的な反対している人が多く来ていると思うので、主な意見の中で否定的な意見が多く出ているのも理解できる。放射線について、金沢で生活している身の回りにも意外と放射線があり、受け入れ対象の漁具・漁網も変わらないということはこの場で知った。やはり、周知を徹底することで、反対している人の意見を変えることや賛成している人がもっと知りたくなったり、別の形で協力しようとか意見が変わってくるのではないかと思う。私は、事務局の説明は納得できたし、市民に発信していけば意見は変わっていくのではないか。

会長

皆が放射能の理解を詳しく持っているわけではない。先ほどから出ているベクレルとかシーベルト、これを詳しく説明できるような情報があった方がよい。市から数的にみたら安全だから問題ないと言われても、その数字がどのような計算根拠から出ているのか、曇りなく説明できるものがよかった方がよいのではないかと思う。非常に難しいとは思いますが。たとえば、シーベルトとベクレルの違い。シーベルトは人への実効線量、実際の影響だが、この辺りを説明できる体制を作っておかないといけない。

環境局長

（市の作る）Q&Aの中に放射線の基礎知識ということで、図解入りでわかりやすく、今指摘のあったことも含め、自然界からどれくらい放射線を浴びているのか、たとえば、食べ物からもどれくらい放射線を浴びているのかということも入れていきたい。ただ、もっと放射線の専門的な知識についてわかりやすく説明するのは難しい。

会 長 ただ、それではどうしても納得できないという人も出てくるのではないか。

環境局長 ベクレルとシーベルトの換算の式はどうだとかは本当に専門的なので一般の市民の方には難しい。ただし、災害廃棄物受入れ可能性検討会からの報告書の中には一例として載っている。

会 長 ただ、式だけ載っていても理解できない。その式がどのような根拠から出ているのか。わかりやすく説明しようとする逆になりにくく、いかに繋がることもあるのだが。

環境局長 そこまで行くと専門家でないので説明できなくなる。(検討会の)専門の先生に聞くこととしたい。

会 長 本当に専門の先生にしっかり理論武装してもらえばよい。

委 員 岩手県と金沢市や輪島市の間を取り持つのが石川県の役目だ。私も輪島市と現地を訪れたし、金沢市の検討会委員としても行っている。現地の様子を見ると(考え方が)変わる。現地では、がれきを手で選別している。危険であればそんなことをさせるわけがないというのが一つのメッセージなのだが、その辺のところは伝わらない。情報のギャップがあるのを感じている。

会 長 皆さんの意見が出たところで、私の方で事務局と答申をまとめていきたいと思う。また、試験搬入についてもできるだけ皆さんに立ち会っていただきそこでの意見も答申に取り込んでいくことでよいか。

(意義なしの声)

会 長 それでは、報告事項の資料2「金沢市生活排水処理計画の策定について」事務局からご説明願います。

環境指導課担当 資料2「金沢市生活排水処理計画の策定について」を説明

会 長 ただ今の説明を受け、ご意見、ご質問はないか。
特にないようであれば、そのように進めてよいか。

(意義なしの声)

会 長 他に質問や意見がないようであれば、本日の議事は以上とする。

事務局

本日は、委員の皆様には長時間にわたり、ご審議いただき誠にありがとうございました。今後も引き続き、ご指導のほどよろしくお願いする。

なお、お手元に第1回の審議会の会議録をお配りしているので、内容のご確認をお願いする。

また、連絡事項だが、環境局は本庁舎耐震化工事に伴い、10月15日より、金沢市東力町の旧西部クリーンセンター管理棟に仮庁舎という形で移転する。詳しくは、お手元の資料で確認して欲しい。今後の審議会の開催場所については、変更となることがあるのでご了承願いたい。

それでは、これで平成24年度第2回金沢市廃棄物総合対策審議会を終了する。本日はどうもありがとうございました。

(別 紙)

平成24年度第2回廃棄物総合対策審議会出席者 (順不同、敬称略)

会長 関 平和 (金沢大学理工研究学域教授)
河内 久美子 (金沢学院短期大学教授)
山本 千夏 (北陸大学薬学部准教授)
山本 建夫 (金沢市町会連合会副会長)
能木場 由紀子 (金沢市校下婦人会連絡協議会会長)
井上 星奈 («金沢のごみを考える」学生連絡会)
松川 治彦 (石川県スーパーマーケット連絡協議代表幹事)
高山 賢悟 (金沢市一般廃棄物事業協同組合理事長)
元林 秀夫 (金沢農業振興協議会会長)
横江 斉 (石川県環境部次長、
石川県環境部長 藤原 励 委員の代理出席)
西元 修 (公募委員)

※欠席者

出村 昌史 (金沢大学医薬保健研究域医学系教授)

(事務局出席者)

坂井 修二 (金沢市環境局長)
蚊戸 進 (金沢市環境局担当部長兼リサイクル推進課長)
佐久間 悟 (金沢市環境局環境政策課長)
川原 陽一 (金沢市環境局環境指導課長)
中坂 暢江 (金沢市環境局温暖化対策室長)
田中 善広 (金沢市環境指導課課長補佐)
西川 信一 (金沢市環境政策課庶務グループ長)
水島 朋子 (金沢市環境政策課主査)